

## 柏の景気情報（平成20年1月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課  
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18  
T E L : 04-7162-3305  
F A X : 04-7162-3323  
U R L : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>  
E-mail : [info@kashiwa-cci.or.jp](mailto:info@kashiwa-cci.or.jp)

## 柏の景気情報（平成20年1月分）

○ 調査期間 : 平成20年1月21日 ~ 1月25日

○ 調査対象 : 柏市内112事業所及び組合にヒアリング

### ＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	112	79	70.5%
建設	20	15	75.0%
製造	26	20	76.9%
卸・小売	43	29	67.4%
サービス	23	15	65.2%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

### 質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

### 質問B 業界内のトピック(記述式)

DI値 = 1 増加他の回答割合 - 3 減少他の回答割合

#### ※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

#### ※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成20年1月の調査結果のポイント】

◀業況DIはマイナス30台へ再び悪化 ▶

○1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲32.9(前月水準▲27.8)となり、マイナス幅が▲5.1ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲34.4(同▲40.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲20.0(同±0.0)、建設業▲46.6(同▲35.7)、サービス業▲33.3(同▲31.2)であり、特に、製造業はマイナス幅が▲20.0ポイントと大幅に拡大した。

【建設業】では、「良い材料はありません」(一般工事業)との厳しい声や、「価格の値上がりで積算が難しい」(一般工事業)、「工事原価の上昇と受注量との減少によって、業況は厳しい」(板金工事業)との原材料価格高騰の影響の声の他、「仕事量は増加してきているが、単価が下がり続けている」(電気工事業)といった工事単価下落の声も寄せられている。

【製造業】では、「建築基準法改正の影響は好転の実感」(建設・建築用金属製品製造業)、「原料等の価格高騰の影響はあるが、業界自体はある程度好調につき、一部吸収できる」(鉄粉製造業)との明るい兆しの声の一方、「原油価格の高騰に伴い、化学系消耗品の値上げ要求が納入会社からあった」(機械・同部品製造業)といった声も寄せられている。その他、「年末の需要が一時的にあったが、これからの様子を見る」(紙製容器製造業)、「今年の原子力界は、原子力の信頼回復が重要なテーマ。また、エネルギー需要や環境面から、原子力発電が非常に重要な年になる」(ロボット製造業)といったコメントも寄せられている。

【卸小売業】では、「寒さの関係で冬物コート等一掃」(学生衣料)との声も寄せられているが、「正月の初売りは、周辺SCでは好調のところもあったようですが、柏駅前的大型店は苦戦の様子。各商業施設への分散化、施設間の流動化が強まりつつある」(百貨店)といった初売り不調の声や、「飲食店の廃業のニュースが何件か入りました。地元商店、飲食店は衰退・廃業の一途をたどっており、時代の流れだけで解決にしているのか疑問」(食料卸売業)、「一般消費者にはそれほど落ち込みはないが、業務店用が柏駅近辺で飲食店が過剰気味のため、廃業または売上の減少と非常に厳しい」(食肉小売業)といった地元飲食店不振による影響の声が寄せられた。また、「古紙配合率100%の問題で出荷停止があり、大きな問題となっている。紙業界全体の偽装に発展しそうだ」(文房具小売業)といった声や、「そこそこのレベルの従業員、特にパートタイマー、アルバイトの確保が大変難しくなっている。抜本的な施策を考えないと日本経済は大変なことになる」(書籍小売業)といった深刻な人材不足の声が寄せられている。その他、「ネットスーパーがスタート。雨の日等自分のパソコンにて買い物ができ、お客様から重宝がられています」(総合スーパー)といったネットショップ開設のコメントが寄せられた。

【サービス業】では、「前年同月の比較では、売上増加予定。12月の宴会と比べ、宴会の客単価上昇」(居酒屋)、「宿泊はスポーツ団体あり。宴会・会議・展示会共に昨年並みの売上」(ホテル)との声も寄せられているが、「フリー客が減少しているため、2月がどうなるか心配」(居酒屋)との先行き不透明の声や、「仕入単価の上昇により、一部販売品の販売単価を上げざるを得ない状況」(獣医業)といった価格転嫁の声が寄せられている。

○仕入コストの上昇

「原油高騰の影響大であり、業況は依然悪化」(燃料小売業)、「灯油は1月少しダウンでも2月再値上げの通達もあり。仕入価格にとっても敏感になっている」(燃料小売業)、「原材料高騰のため包装資材の原価が上がっている。ガソリンの値上げも配達業務等に多少影響が出ている」(花小売業)といった原油・原材料価格高騰による悪影響の声や、「原材料高騰に関しては、相当な影響が出てくる。これに対応できるような更なるコストの削減努力、新しい商品開発が急務」(食品スーパー)といった課題の声に加え、「グループ全体でPB商品の開発に力を入れ、極力価格上昇を抑える努力をしている」(コンビニエンスストア)との新商品開発のコメントが寄せられた。

○消費意欲の低下

小売業から、「セール期間中売上昨対99.0%と前年を下回る結果となり、低調な推移となっている」(各種商品小売業)、「初売りは見切りに入った冬物衣料品・福袋を中心に動きがあったが、中旬に入り、前年数字を割り込んでいく」(各種商品小売業)といった初売り不調の声や、「新学期衣料出足が悪い。財布の紐がかたく、細かくなっている」(学生衣料)、「定率減税廃止や原油の高騰等による生産費用増加や、先行き不安による消費の停滞があり、青果物にも厳しい状況」(青果卸売業)、「今年に入り、消費者の買い控え、本当に必要なものしか買わないといった変化が見られる」といった先行き不安や購買意欲低下の声が多く寄せられた。

○建築確認申請問題

「建築基準法改正の影響は好転の実感」(建設・建築用金属製品製造業)との声も寄せられているが、「建築基準法の影響で着工件数の減少」(塗料卸売業)との声や、「昇降機の建築基準法の改正の指針が20年4月頃に国交省より出されるため、新規物件の動きが鈍い。建築基準法強化の影響がまだ市況に表れていない」(設備工事業)といった声が寄せられている。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
8月	▲31.9	▲35.7	▲5.5	▲44.4	▲38.4
9月	▲20.8	▲21.4	▲5.8	▲40.7	±0.0
10月	▲22.5	▲15.3	▲5.5	▲40.7	▲15.3
11月	▲31.7	▲23.5	▲23.8	▲40.7	▲35.2
12月	▲27.8	▲35.7	±0.0	▲40.0	▲31.2
1月	▲32.9	▲46.6	▲20.0	▲34.4	▲33.3
見通し	▲27.8	▲40.0	△10.0	▲41.3	▲40.0

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 25.3	▲ 6.3	▲ 37.9	▲ 20.2	▲ 62.0	▲ 50.6	△ 16.4	△ 17.7
建設	▲ 53.3	▲ 40.0	▲ 53.3	▲ 33.3	▲ 73.3	▲ 46.6	△ 6.6	△ 6.6
製造	▲ 10.0	△ 35.0	▲ 40.0	▲ 5.0	▲ 65.0	▲ 45.0	△ 10.0	△ 15.0
卸・小売	▲ 17.2	▲ 6.8	▲ 31.0	▲ 17.2	▲ 55.1	▲ 51.7	△ 6.8	△ 13.7
サービス	▲ 33.3	▲ 26.6	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 60.0	▲ 60.0	△ 53.3	△ 40.0

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 32.9	▲ 27.8	▲ 20.2	▲ 20.2
建設	▲ 46.6	▲ 40.0	▲ 26.6	▲ 13.3
製造	▲ 20.0	△ 10.0	▲ 15.0	▲ 15.0
卸・小売	▲ 34.4	▲ 41.3	▲ 10.3	▲ 20.6
サービス	▲ 33.3	▲ 40.0	▲ 40.0	▲ 33.3

【平成20年1月の業況についての状況】

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲32.9(前月水準▲27.8)となり、マイナス幅が▲5.1ポイント拡大した。

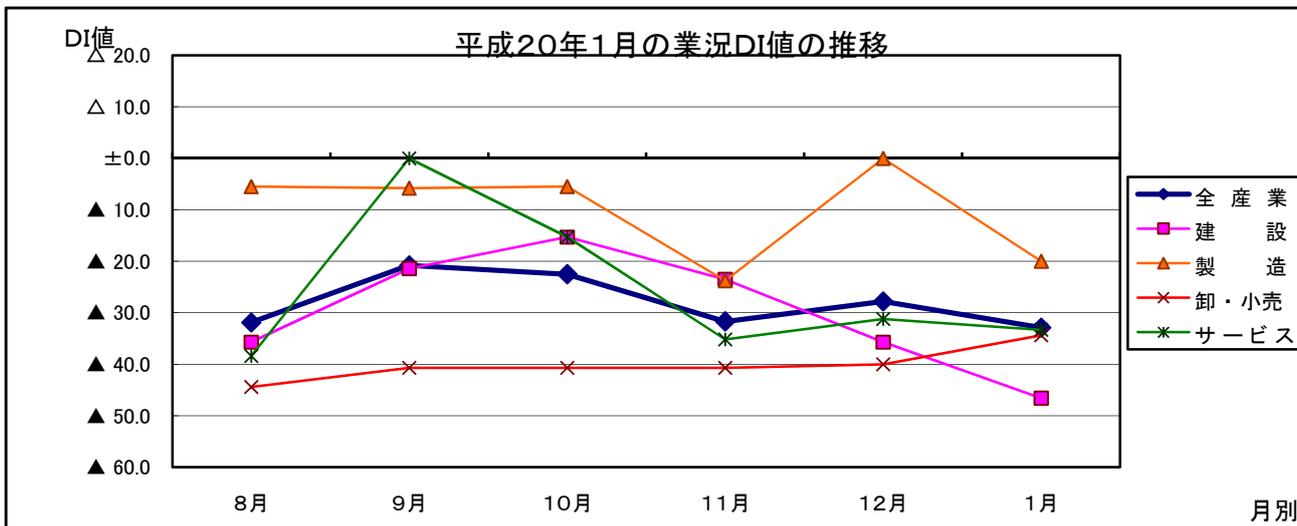
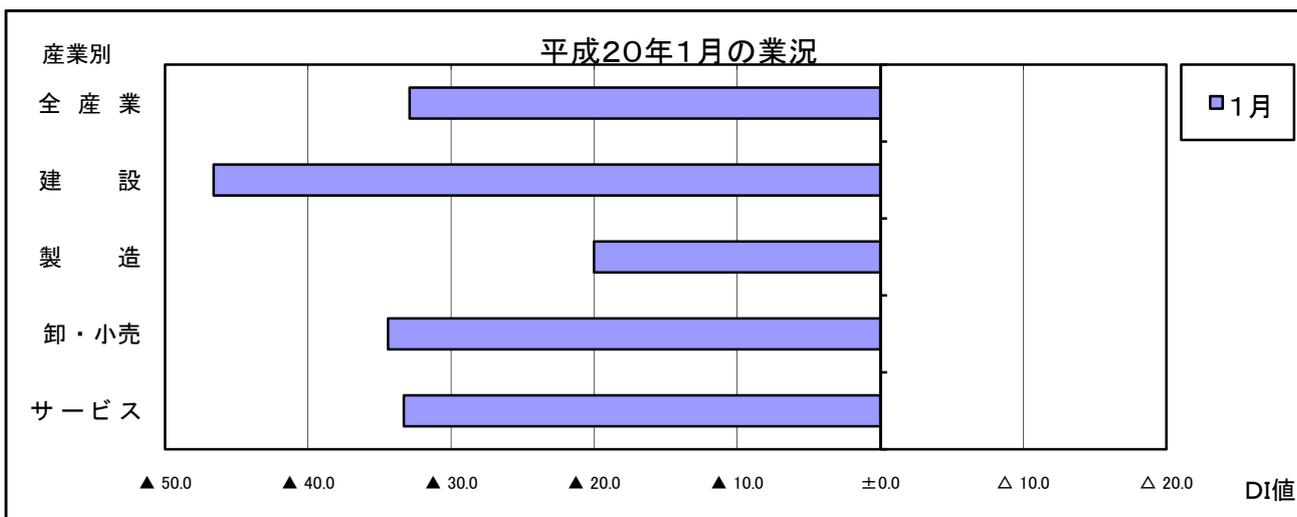
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲34.4(同▲40.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲20.0(同±0.0)、建設業▲46.6(同▲35.7)、サービス業▲33.3(同▲31.2)であり、特に、製造業はマイナス幅が▲20.0ポイントと大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、▲27.8(前月水準▲31.6)となり、マイナス幅が△3.8ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、製造業△10.0(同▲15.7)であり、△25.7ポイントと大幅に改善する見通しである。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、建設業▲40.0(同▲42.8)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲40.0(同▲31.2)、卸小売業▲41.3(同▲36.6)である。

平成20年1月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成19年 8月	9月	10月	11月	12月	平成20年 1月	先行き見通し 2月~4月(1月~3月)
全産業	▲31.9	▲20.8	▲22.5	▲31.7	▲27.8	▲32.9	▲27.8(▲31.6)
建設	▲35.7	▲21.4	▲15.3	▲23.5	▲35.7	▲46.6	▲40.0(▲42.8)
製造	▲5.5	▲5.8	▲5.5	▲23.8	±0.0	▲20.0	△10.0(▲15.7)
卸・小売	▲44.4	▲40.7	▲40.7	▲40.7	▲40.0	▲34.4	▲41.3(▲36.6)
サービス	▲38.4	±0.0	▲15.3	▲35.2	▲31.2	▲33.3	▲40.0(▲31.2)



【平成20年1月の売上についての状況】

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲25.3(前月水準▲8.8)となり、マイナス幅が▲16.5ポイント拡大した。

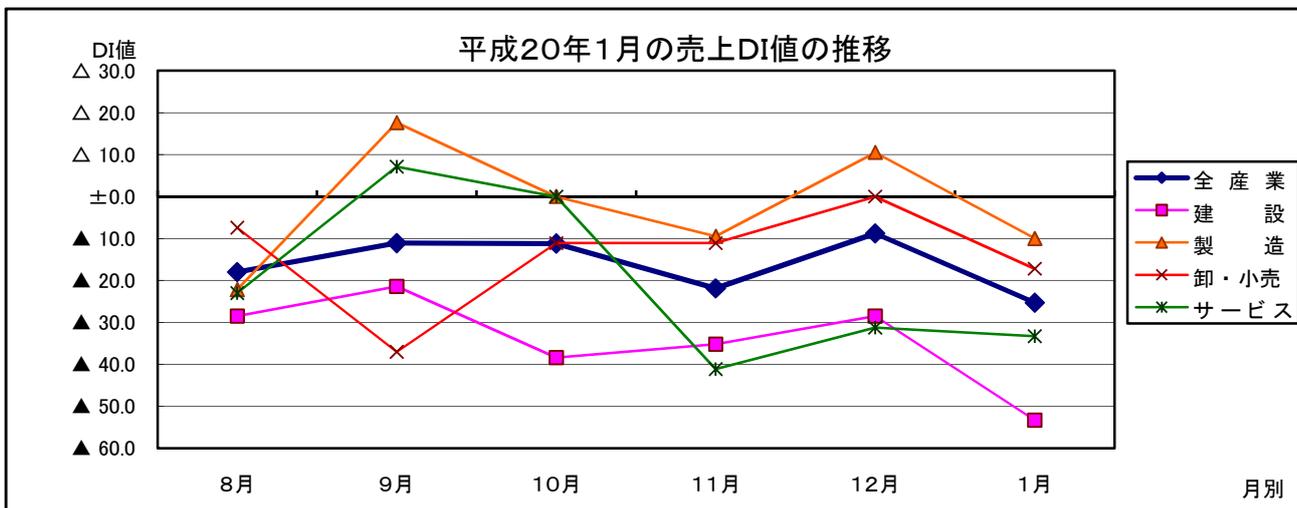
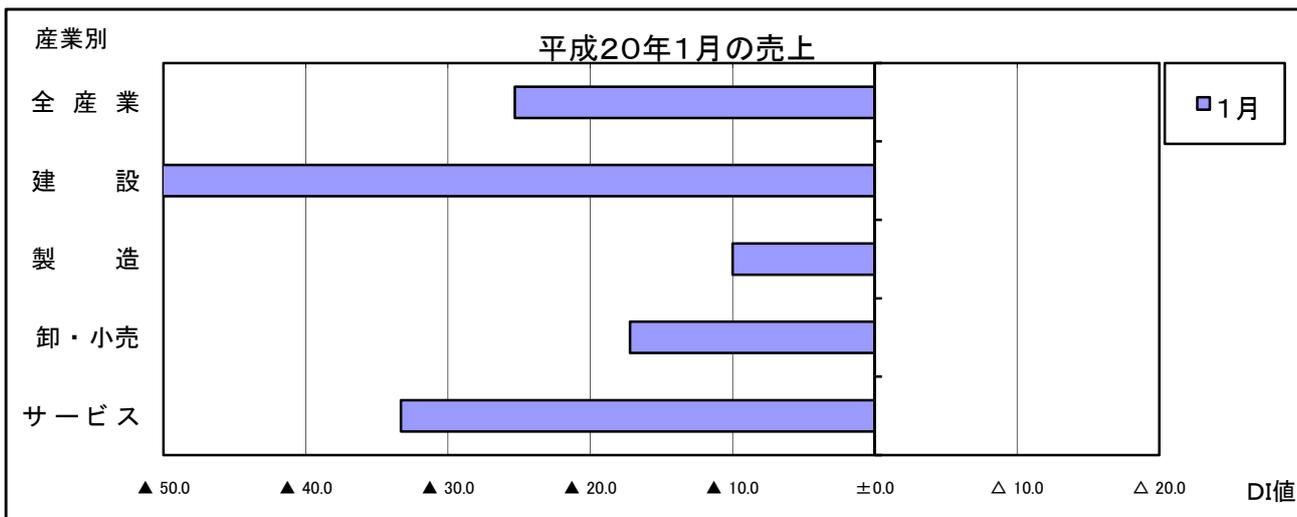
業種別では、前月水準と比べて、プラスからマイナスに転じた業種は、製造業▲10.0(同△10.5)であり、▲20.5ポイントと大幅に悪化した。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲53.3(同▲28.5)、卸小売業▲17.2(同±0.0)、サービス業▲33.3(同▲31.2)であり、特に、建設業はマイナス幅が▲24.8ポイントと大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、▲6.3(前月水準▲22.7)となり、マイナス幅が△16.4ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、製造業△35.0(同▲5.2)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲6.8(同▲23.3)、建設業▲40.0(同▲42.8)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業▲26.6(同▲25.0)である。

平成20年1月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成19年 8月	9月	10月	11月	12月	平成20年 1月	先行き見通し 2月~4月(1月~3月)
全産業	▲18.0	▲11.1	▲11.2	▲21.9	▲8.8	▲25.3	▲6.3(▲22.7)
建設	▲28.5	▲21.4	▲38.4	▲35.2	▲28.5	▲53.3	▲40.0(▲42.8)
製造	▲22.2	△17.6	±0.0	▲9.5	△10.5	▲10.0	△35.0(▲5.2)
卸・小売	▲7.4	▲37.0	▲11.1	▲11.1	±0.0	▲17.2	▲6.8(▲23.3)
サービス	▲23.0	△7.1	±0.0	▲41.1	▲31.2	▲33.3	▲26.6(▲25.0)



【平成20年1月の採算についての状況】

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲37.9(前月水準▲34.1)となり、マイナス幅が▲3.8ポイント拡大した。

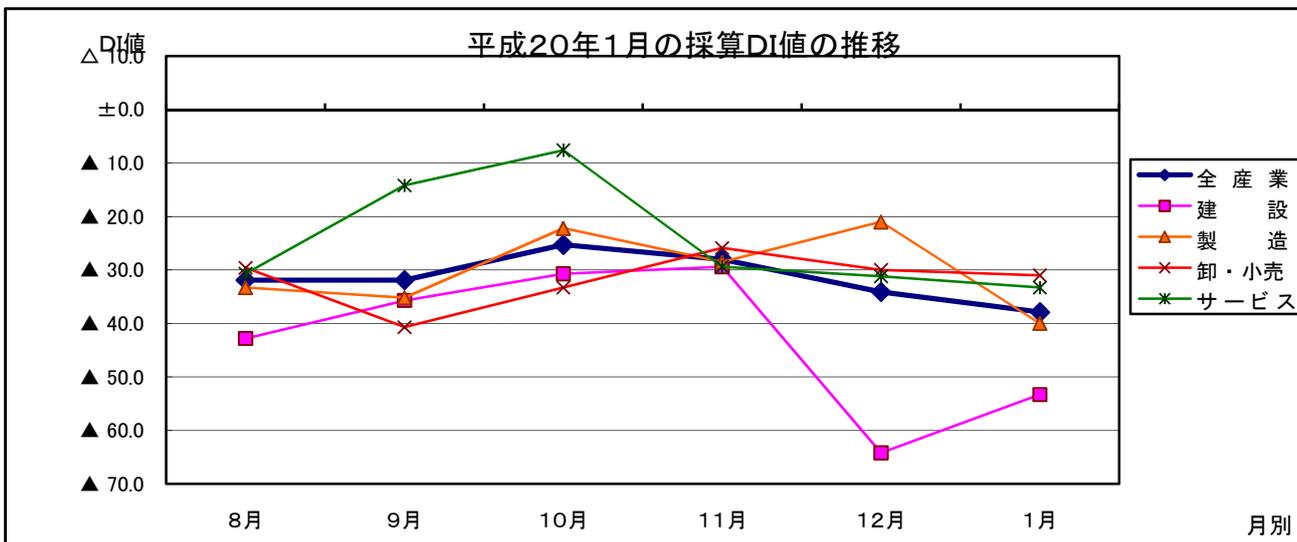
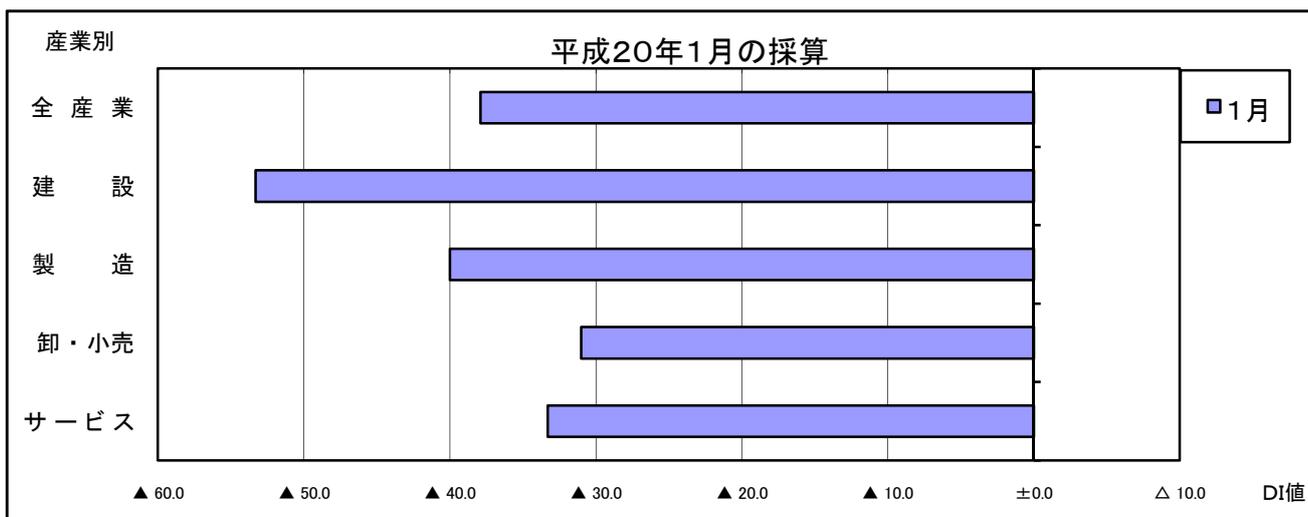
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲53.3(同▲64.2)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲40.0(同▲21.0)、サービス業▲33.3(同▲31.2)、卸小売業▲31.0(同▲30.0)である。

○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、▲20.2(前月水準▲36.7)となり、マイナス幅が△16.5ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲17.2(同▲46.6)、製造業▲5.0(同▲26.3)、建設業▲33.3(同▲42.8)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業▲33.3(同▲25.0)である。

平成20年1月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成19年 8月	9月	10月	11月	12月	平成20年 1月	先行き見通し 2月~4月(1月~3月)
全産業	▲31.9	▲31.9	▲25.3	▲28.0	▲34.1	▲37.9	▲20.2(▲36.7)
建設	▲42.8	▲35.7	▲30.7	▲29.4	▲64.2	▲53.3	▲33.3(▲42.8)
製造	▲33.3	▲35.2	▲22.2	▲28.5	▲21.0	▲40.0	▲5.0(▲26.3)
卸・小売	▲29.6	▲40.7	▲33.3	▲25.9	▲30.0	▲31.0	▲17.2(▲46.6)
サービス	▲30.7	▲14.2	▲7.6	▲29.4	▲31.2	▲33.3	▲33.3(▲25.0)



【平成20年1月の仕入単価についての状況】

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲62.0(前月水準▲53.1)となり、マイナス幅が▲8.9ポイント拡大した。

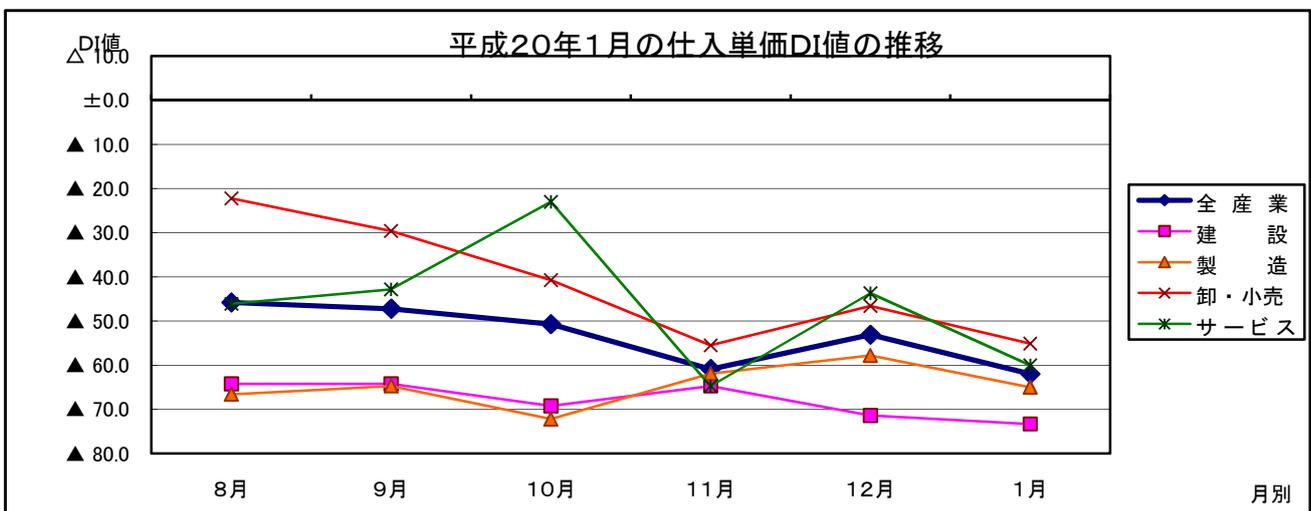
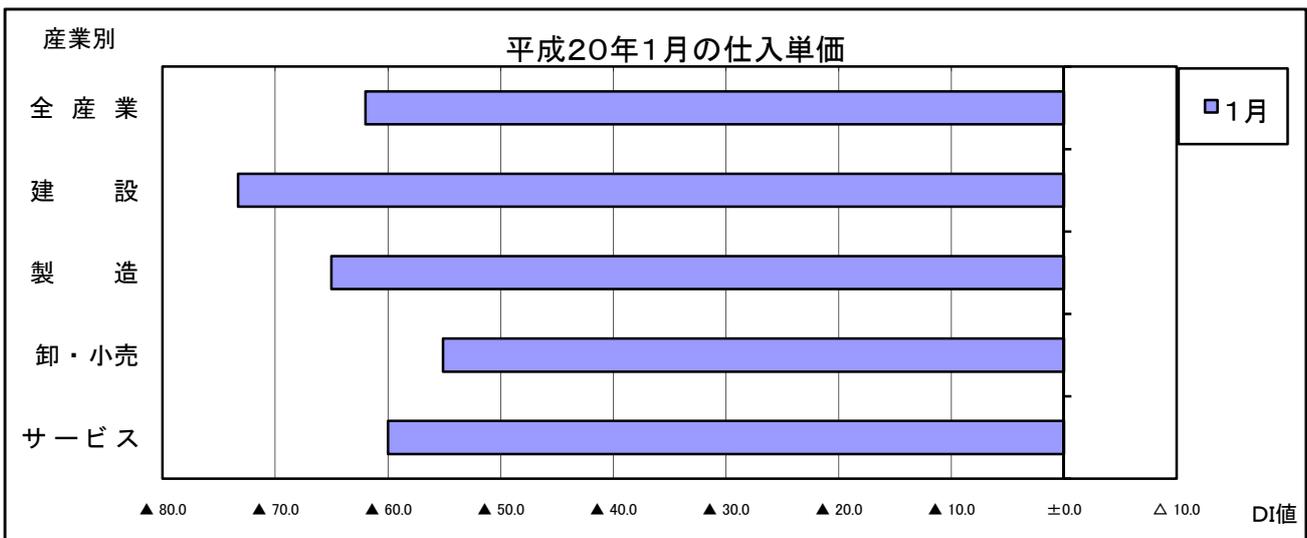
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲60.0(同▲43.7)、卸小売業▲55.1(同▲46.6)、製造業▲65.0(同▲57.8)、建設業▲73.3(同▲71.4)であり、全業種で悪化した。

○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、▲50.6(前月水準▲48.1)となり、マイナス幅が▲2.5ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲46.6(同▲50.0)、製造業▲45.0(同▲47.3)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲60.0(同▲50.0)、卸小売業▲51.7(同▲46.6)である。

平成20年1月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成19年 8月	9月	10月	11月	12月	平成20年 1月	先行き見通し 2月~4月(1月~3月)
全産業	▲45.8	▲47.2	▲50.7	▲60.9	▲53.1	▲62.0	▲50.6(▲48.1)
建設	▲64.2	▲64.2	▲69.2	▲64.7	▲71.4	▲73.3	▲46.6(▲50.0)
製造	▲66.6	▲64.7	▲72.2	▲61.9	▲57.8	▲65.0	▲45.0(▲47.3)
卸・小売	▲22.2	▲29.6	▲40.7	▲55.5	▲46.6	▲55.1	▲51.7(▲46.6)
サービス	▲46.1	▲42.8	▲23.0	▲64.7	▲43.7	▲60.0	▲60.0(▲50.0)



【平成20年1月の従業員についての状況】

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△16.4(前月水準△18.9)となり、プラス幅が▲2.5ポイント縮小した。

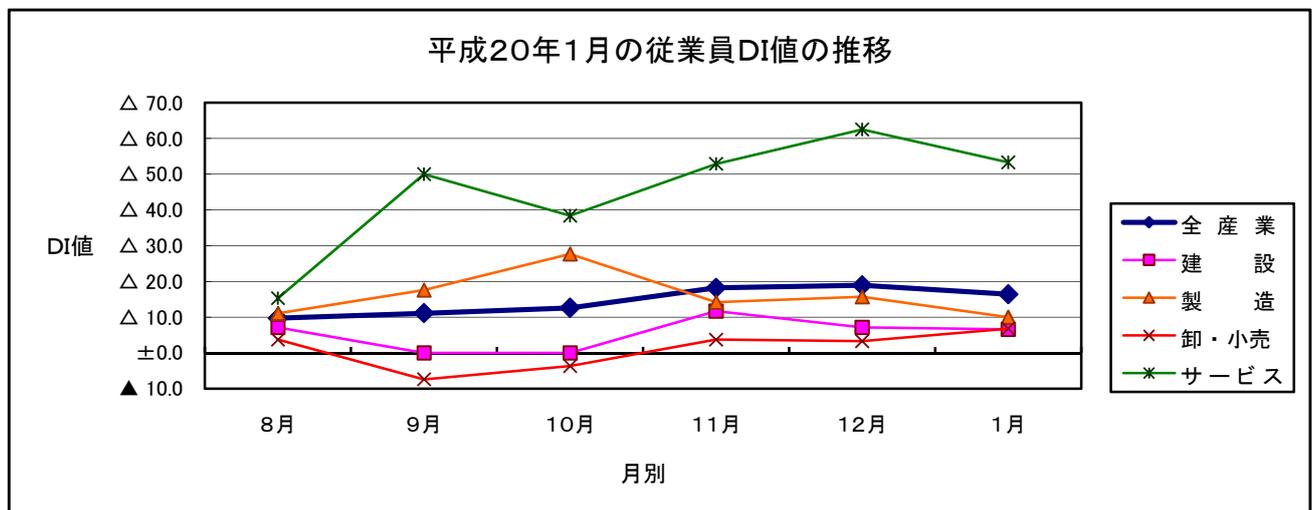
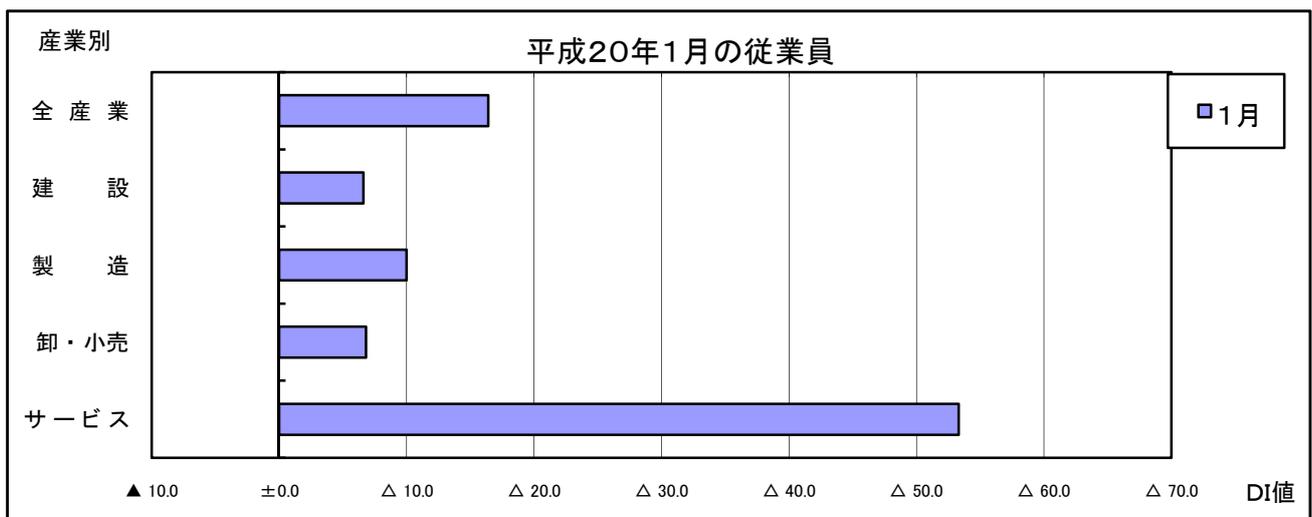
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、卸小売業△6.8(同△3.3)である。プラス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業△53.3(同△62.5)、製造業△10.0(同△15.7)、建設業△6.6(同△7.1)である。

○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、△17.7(前月水準△16.4)となり、プラス幅が△1.3ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業△13.7(同±0.0)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業△40.0(同△56.2)、製造業△15.0(同△15.7)、建設業△6.6(同△7.1)である。

平成20年1月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成19年 8月	9月	10月	11月	12月	平成20年 1月	先行き見通し 2月~4月(1月~3月)
全産業	△ 9.7	△ 11.1	△ 12.6	△ 18.2	△ 18.9	△ 16.4	△ 17.7 ( △ 16.4 )
建設	△ 7.1	±0.0	±0.0	△ 11.7	△ 7.1	△ 6.6	△ 6.6 ( △ 7.1 )
製造	△ 11.1	△ 17.6	△ 27.7	△ 14.2	△ 15.7	△ 10.0	△ 15.0 ( △ 15.7 )
卸・小売	△ 3.7	▲ 7.4	▲ 3.7	△ 3.7	△ 3.3	△ 6.8	△ 13.7 ( ±0.0 )
サービス	△ 15.3	△ 50.0	△ 38.4	△ 52.9	△ 62.5	△ 53.3	△ 40.0 ( △ 56.2 )



【平成20年1月の資金繰りについての状況】

○ 1月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲20.2(前月水準▲18.9)となり、マイナス幅が▲1.3ポイント拡大した。

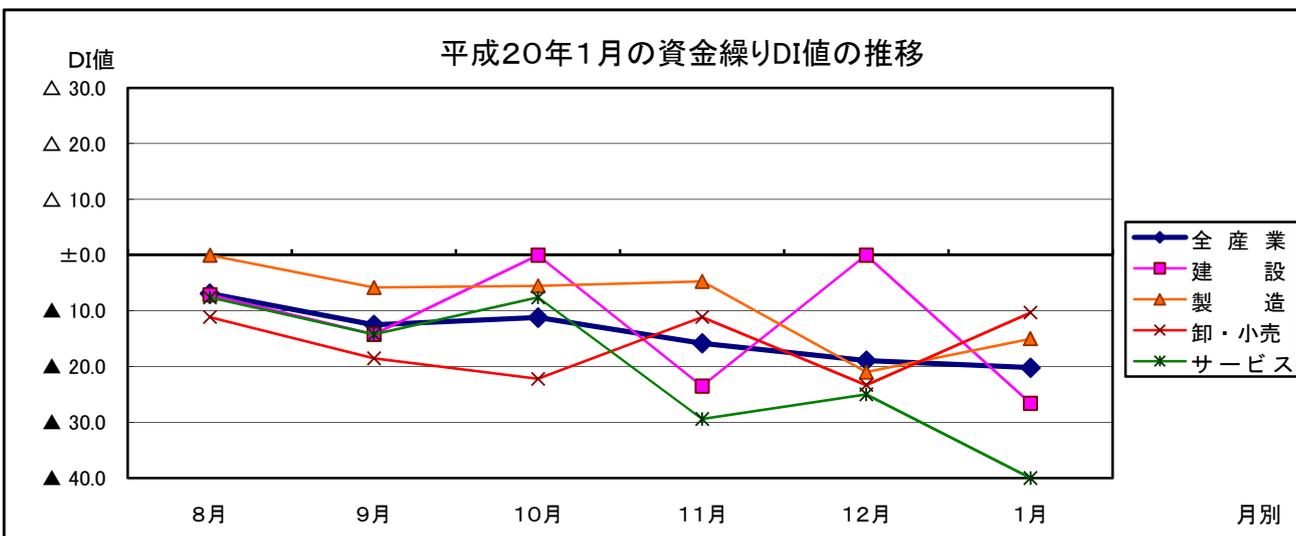
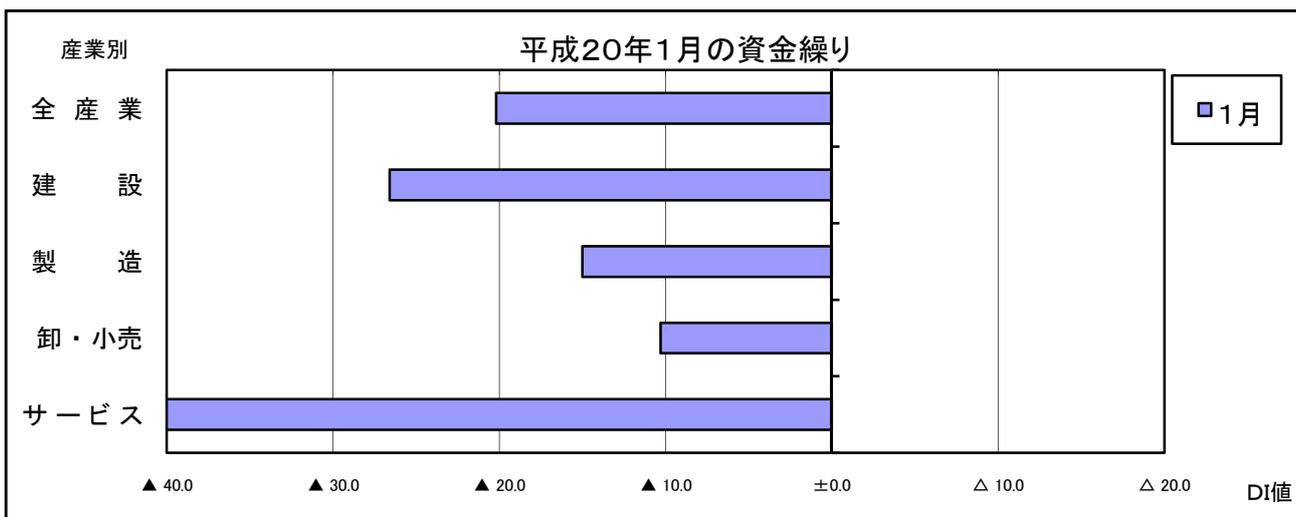
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲10.3(同▲23.3)、製造業▲15.0(同▲21.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲26.6(同±0.0)、サービス業▲40.0(同▲25.0)であり、特に、建設業はマイナス幅が▲26.6ポイントと大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(2月から4月)の先行き見通しについては、全産業では、▲20.2(前月水準▲18.9)となり、マイナス幅が▲1.3ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲15.0(同▲21.0)、卸小売業▲20.6(同▲23.3)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲13.3(同±0.0)、サービス業▲33.3(同▲25.0)である。

平成20年1月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成19年 8月	9月	10月	11月	12月	平成20年 1月	先行き見通し 2月~4月(1月~3月)
全産業	▲ 6.9	▲ 12.5	▲ 11.2	▲ 15.8	▲ 18.9	▲ 20.2	▲ 20.2 ( ▲ 18.9 )
建設	▲ 7.1	▲ 14.2	±0.0	▲ 23.5	±0.0	▲ 26.6	▲ 13.3 ( ±0.0 )
製造	±0.0	▲ 5.8	▲ 5.5	▲ 4.7	▲ 21.0	▲ 15.0	▲ 15.0 ( ▲ 21.0 )
卸・小売	▲ 11.1	▲ 18.5	▲ 22.2	▲ 11.1	▲ 23.3	▲ 10.3	▲ 20.6 ( ▲ 23.3 )
サービス	▲ 7.6	▲ 14.2	▲ 7.6	▲ 29.4	▲ 25.0	▲ 40.0	▲ 33.3 ( ▲ 25.0 )



【平成20年1月の業種別業界内トピックス】

産業別	概況	キーワード	業種
建設	良い材料はありません。 価格の値上がりで積算が難しい。	・好材料なし ・仕入上昇 ・積算困難	一般土木建築工事業 一般土木建築工事業
	工事原価の上昇と受注量との減少によって、業況は厳しい状況にあります。 的確な打開策が必要です。	・仕入上昇 ・受注減少 ・厳しい業況	板金・金物工事業
	仕事の方も少し悪化しております。 仕事量は増加してきているが、単価が下がり続けている。	・業況悪化 ・仕事量増加 ・単価下落	塗装工事業 電気工事業
	年末の需要が一時的にあったが、これからの様子を見る。	・年末需要	紙製容器製造業
製造	原料等の価格高騰の影響はあるが、業界自体はある程度好調につき、一部吸収できる。	・原材料高騰 ・鉄粉業界好調	その他の鉄鋼業
	建築基準法改正の影響は好転の実感。	・建築確認申請問題	建設用・建築用金属製品製造業（製缶板金属を含む）
	昇降機の建築基準法の改正の指針が20年4月頃に国交省より出される準備が進んでいるため、新規物件の動きが鈍いと同時に、建築基準法強化の影響がまだ市況に表れていない。	・建築確認申請問題	その他の設備工事業
	原油価格の高騰に伴い、化学系消耗品の値上げ要求が納入会社からあった。	・原油高騰 ・値上げ要求	その他の機械・同部分品製造業
	今年の原子力界は、原子力の信頼回復が重要なテーマ。また、エネルギー需要や環境面から、原子力発電が非常に重要な年になる。	・原子力発電	その他の化学工業
	飲食店の廃業のニュースが何件か入りました。柏市は市場間競争では勝者かもしれませんが、地元商店、飲食店は衰退・廃業の一途をたどっています。日本中がそのような傾向にあるとか、時代の流れだけで解決にしているのか疑問です。	・飲食店閉店	食料・飲料卸売業
卸小売	正月の初売りは、周辺SCではオープン時並みの賑わいであったところもあるようですが、柏駅前的大型店は苦戦の様子です。昨年末のクリスマス商戦もそうであったように、各商業施設への分散化、施設間の流動化が強まりつつあるようです。	・初売り ・競争激化 ・過当競争 ・分散化・流動化	百貨店
	イトーヨーカ堂柏店では、1月23日（水）よりネットスーパーがスタートしました。雨の日等自分のパソコンにて買い物ができます。お客様から重宝がられています。	・ネットショップ	その他の各種商品小売業（従業者が常時50人未満のもの）
	原材料高騰に関しては、相当な影響が出てくると思います。これに対応できるような更なるコストの削減努力、新しい商品開発が急務でしょう。景気の先行き不安から、消費も落ちていくと考えています。	・原材料高騰 ・コスト削減 ・新商品開発 ・先行き不安 ・消費意欲の低下	各種食料品小売業
	現状は果実野菜とともに入荷減単価安の状況が続いています。定率減税廃止や原油の高騰等々による生産費用に跳ね返り、先行き不安による消費の停滞があり、青果物にも厳しい状況下にあります。卸としての使命感達成のため産地情報経済情勢を見ながら対応する必要があります。	・入荷減少・単価安 ・定率減税廃止 ・原油高騰 ・生産費用高騰 ・先行き不透明	食料・飲料卸売業
	セブン&ホールディングスグループ全体でPB商品の開発に力を入れ、極力価格上昇を抑える努力をしている。 今年に入り、消費者の買い控え、本当に必要なものしか買わないといった変化が見られる。	・新商品開発 ・消費意欲の低下	その他の各種商品小売業（従業者が常時50人未満のもの）

【平成20年1月の業種別業界内トピックス】

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・柏の葉おたかの森の大型ショッピングセンターの影響か、飲食店の閉店が2～3軒出ている。</li> <li>・寒さの関係で冬物コート等一掃(昨年3割アップ)</li> <li>・新学期用品の受注は昨年並みだが、仕入原価の高騰分と売価に転嫁できない。</li> <li>・新学期衣料出足が悪い。財布の紐がかたく、細かくなっている。</li> <li>・資金繰り:仕入商品のために長期在庫(販売分)をしたために資金繰りが厳しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飲食店閉店</li> <li>・競争激化</li> <li>・天候の影響</li> <li>・冬物衣料好調</li> <li>・仕入上昇</li> <li>・価格転嫁</li> <li>・消費意欲の低下</li> <li>・資金繰り難</li> </ul>	その他の飲食料品小売業
	<p>医院が1軒やめたために売上が減少するため。 原油高騰の影響大であり、業況は依然悪化。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・売上減少</li> <li>・原油高騰</li> <li>・業況悪化</li> </ul>	<p>医薬品・化粧品小売業 燃料小売業(ガソリンスタンド含まず)</p>
	<p>11月に先を見越したガス料金の価格対策なので今月は支払に余裕あり。でも来月の支払で±0円。会社によっては2月再値上げを決定するところもある。当社は決断できず据え置く予定。 灯油は1月少しダウンでも2月再値上げの通達もあり。仕入価格にとっても敏感になっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・価格据え置き</li> <li>・仕入上昇</li> </ul>	燃料小売業(ガソリンスタンド含まず)
	<p>そこそこのレベルの従業員、特にパートタイマー、アルバイトの確保が大変難しくなっている。単に時給の問題だけではない。生産年齢人口減少等をふまえた抜本的な施策を考えないと日本経済は大変なことになります。早ければ5～10年後以内には！</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人材不足</li> </ul>	書籍・文房具小売業
	<p>原材料高騰のため包装資材の原価が上がっています。ガソリンの値上げも配達業務等に多少影響が出ております。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原材料高騰</li> <li>・包装資材値上げ</li> <li>・ガソリン値上げ</li> </ul>	花、植木小売業
	<p>初売りは見切りに入った冬物衣料品・福袋を中心に動きがあったが、中旬に入り、前年数字を割り込んでいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初売り</li> <li>・前年割れ</li> </ul>	その他の各種商品小売業(従業員が常時50人未満のもの)
	<p>1/2の初売りは周辺競合激化に加え、福袋扱い個数の減少から売上・入店客数ともに前年を大きく下回る結果となった。その後もセールの買い控えなどもあり、低調な推移となった。 1/10(木)から開催のSUPER6DAYSは期間中売上昨対99.0%と前年を下回る結果となり、セール終了後のSUPER FAINALでも大きな伸びは見られず、低調な推移となっている。月末に掛けても大きなイベントの予定もないことから苦戦が予想される。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初売り</li> <li>・前年割れ</li> <li>・イベント不調</li> </ul>	各種商品小売業
	<p>PPC用紙の古紙配合率100%(R100)の配合率問題で出荷停止があり、大きな問題となっている。紙業界全体の偽装に発展しそうだ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古紙配合率問題</li> </ul>	書籍・文房具小売業
	<p>食肉業界においては、一般の消費者にはそれほど落ち込みはないけれど、業務店用が柏駅近辺で飲食店が過剰気味のため、廃業または売上の減少と非常に厳しい幕開けの1月です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・過当競争</li> <li>・売上減少</li> </ul>	食肉小売業
	<p>仕入単価:原油高に伴う改定 建築基準法:着工件数の減少 内需に依存する業種は不振。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原油高騰</li> <li>・仕入単価値上げ</li> <li>・建築確認申請問題</li> <li>・内需業界不振</li> </ul>	塗料卸売業
サービス	<p>宿泊はスポーツ団体あり。宴会は宴会・会議・展示会共に昨年並みの売上(不変)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宿泊不変</li> <li>・宴会売上不変</li> </ul>	ホテル
	<p>前年同月の比較では、売上増加予定。12月の宴会と比べ、宴会の客単価上昇があり。事由はよくわかりませんが、2月がどうなるか心配です(フリー客が減少しているため)。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・売上増加</li> <li>・客単価上昇</li> </ul>	酒場・ビヤホール
	<p>仕入単価の上昇により、一部販売品の販売単価を上げざるを得ない状況です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕入上昇</li> <li>・値上げ</li> </ul>	獣医業

## 【平成20年1月の多い景気キーワード】

### ◎仕入コストの上昇

- ・ 価格の値上がりで積算が難しい。 (建設業)
- ・ 工事原価の上昇と受注量との減少によって、業況は厳しい状況にあります。的確な打開策が必要です。 (建設業)
- ・ 原料等の価格高騰の影響はあるが、業界自体はある程度好調につき、一部吸収できる。 (製造業)
- ・ 原油価格の高騰に伴い、化学系消耗品の値上げ要求が納入会社からあつ (製造業)
- ・ 原材料高騰に関しては、相当な影響が出てくると思います。これに対応できるような更なるコストの削減努力、新しい商品開発が急務でしょう。 (卸小売業)
- ・ セブン&ホールディングスグループ全体でPB商品の開発に力を入れ、極力価格上昇を抑える努力をしている。 (卸小売業)
- ・ 現状は果実野菜とともに入荷減単価安の状況が続いています。定率減税廃止や原油の高騰等々による生産費用に跳ね返り、先行き不安による消費の停滞があり、青果物にも厳しい状況下にあります。 (卸小売業)
- ・ 新学期用品の受注は昨年並みだが、仕入原価の高騰分と売価に転嫁でき (卸小売業)
- ・ 原油高騰の影響大であり、業況は依然悪化。 (卸小売業)
- ・ 会社によっては2月再値上げを執行するところもある。当社は決断できず据え置く予定。 (卸小売業)
- ・ 灯油は1月少しダウンでも2月再値上げの通達もあり。仕入価格にとっても敏感になっている。 (卸小売業)
- ・ 原材料高騰のため包装資材の原価が上がっています。ガソリンの値上げも配達業務等に多少影響が出ております。 (卸小売業)
- ・ 仕入単価:原油高に伴う改定 (卸小売業)
- ・ 仕入単価の上昇により、一部販売品の販売単価を上げざるを得ない状況です。 (サービス業)

### ◎消費意欲の低下

- ・ 景気の先行き不安から、消費も落ちていくと考えています。 (卸小売業)
- ・ 定率減税廃止や原油の高騰等々による生産費用に跳ね返り、先行き不安による消費の停滞があり、青果物にも厳しい状況下にあります。 (卸小売業)
- ・ 今年に入り、消費者の買い控え、本当に必要なものしか買わないといった変化が見られる。 (卸小売業)
- ・ 新学期衣料出足が悪い。財布の紐がかたく、細かくなっている。 (卸小売業)
- ・ 初売りは見切りに入った冬物衣料品・福袋を中心に動きがあったが、中旬に入り、前年数字を割り込んでいる。 (卸小売業)
- ・ 1/2の初売りは周辺競合激化に加え、福袋扱い個数の減少から売上・入店客数ともに前年を大きく下回る結果となった。その後もセールの買い控えなどもあり、低調な推移となった。 (卸小売業)
- ・ 1/10(木)から開催のSUPER6DAYSは期間中売上昨対99.0%と前年を下回る結果となり、セール終了後のSUPER FAINALでも大きな伸びは見られず、低調な推移となっている。月末に掛けても大きなイベントの予定もないことから苦戦が予想される。

### ◎建築確認申請問題

- ・ 建築基準法改正の影響は好転の実感。 (製造業)
- ・ 昇降機の建築基準法の改正の指針が20年4月頃に国交省より出される準備が進んでいるため、新規物件の動きが鈍いと同時に、建築基準法強化の影響がまだ市況に表れていない。 (製造業)
- ・ 建築基準法:着工件数の減少 (卸小売業)

## 平成20年1月のCCI - LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲32.9に対し、「CCI-LOBO」が▲47.9で、マイナス幅が15.0ポイント小さい。「柏の景気」の方が全ての業種で10ポイント以上良い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲25.3に対し、「CCI-LOBO」が▲39.8で、マイナス幅が14.5ポイント小さい。「柏の景気」の方が全ての業種で良くなっており、10ポイント以上良い業種は、製造業・卸小売業。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲37.9に対し、「CCI-LOBO」が▲47.1で、マイナス幅が9.2ポイント小さい。「柏の景気」の方が全ての業種で良くなっており、10ポイント以上良い業種は、卸小売業・サービス業。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲62.0に対し、「CCI-LOBO」が▲48.4で、マイナス幅が13.6ポイント大きい。「柏の景気」の方が全ての業種で悪くなっており、10ポイント以上悪い業種は、建設業・卸小売業・サービス業。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△16.4に対し、「CCI-LOBO」が▲4.0で、プラス幅が20.4ポイント大きい。「柏の景気」の方が全ての業種で良くなっており、10ポイント以上良い業種は、建設業・製造業・サービス業。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲20.2に対し、「CCI-LOBO」が▲28.5で、マイナス幅が8.3ポイント小さい。「柏の景気」の方が10ポイント以上良い業種は、建設業・製造業・卸小売業。「柏の景気」の方が10ポイント以上悪い業種は、サービス業。

# 平成20年1月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI 50	好調 50>DI 25	まあまあ 25>DI 0	不振 0>DI 25	極めて不振 25>DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 32.9	 46.6	 20.0	 34.4	 33.3
CCI LOBO	 47.9	 58.1	 40.4	 49.2	 44.5

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 25.3	 53.3	 10.0	 17.2	 33.3
CCI LOBO	 39.8	 55.7	 24.0	 43.9	 36.6

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 37.9	 53.3	 40.0	 31.0	 33.3
CCI LOBO	 47.1	 63.0	 43.8	 44.4	 45.3

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 62.0	 73.3	 65.0	 55.1	 60.0
CCI LOBO	 48.4	 59.0	 60.7	 38.7	 46.9

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 16.4	 6.6	 10.0	 6.8	 53.3
CCI LOBO	 4.0	 15.9	 2.2	 ±0.0	 2.2

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 20.2	 26.6	 15.0	 10.3	 40.0
CCI LOBO	 28.5	 45.1	 25.1	 27.6	 23.5

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

# 柏の景気情報

(1月の調査結果のポイント)

調査期間：平成20年1月21日～25日

調査対象：柏市内112事業所及び組合にヒアリング、回答数79

柏の景気情報・産業別業況D I

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
8月	31.9	35.7	5.5	44.4	38.4
9月	20.8	21.4	5.8	40.7	±0.0
10月	22.5	15.3	5.5	40.7	15.3
11月	31.7	23.5	23.8	40.7	35.2
12月	27.8	35.7	±0.0	40.0	31.2
1月	32.9	46.6	20.0	34.4	33.3
見通し	27.8	40.0	10.0	41.3	40.0

「見通し」は今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しD I

## 柏市の業況

業況D Iはマイナス三〇台へ再び悪化

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業 三四・四同、四〇〇である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業 一〇〇〇同、五〇〇、建設業 四六・六同、三五七、サービス業 三三・三三(同三三・三三)であり、特に製造業はマイナス幅が一〇〇ポイントと大幅に拡大した。

【建設業】では、「良い材料はありません」「(一般事業)との厳しい声や、「価格の値上がりで積算が難しい」「(一般事業)、「工事原価の上昇と受注

量との減少によって業況は厳しい(板金・事業)との原材料価格高騰の影響の他にも、「仕事量は増加してきているが、単価が下がり続けている」「(電気・事業)といった工事単価下落の声も寄せられている。

【製造業】では、「建築基準法改正の影響は好転の兆し(建設・建築用金属製品製造業)、「原料等の価格高騰の影響はあるが、業界自体はある程度好調につき、一部吸収できる」「(鉄粉製造業)との明るい兆しの声の一方、「原油価格の高騰に伴い、化学系消耗品の値上げ要求が納入会社からあった(機械・同部型製造業)といった声も寄せられている。その他、「年末の需要が一時的にあつたが、これからの様子を見る」「(紙製容器製造業)、「今年の原子力界は、原子力の信頼回復が重要なテーマ。また、エネルギー需要や環境面から、原子力発電が非常に重要な年になる」「(ロボット製造業)といったコメントも寄せられている。

【卸小売業】では、「寒さの関係で冬物コート等一掃(学生衣料)との声も寄せられているが、「正月の初売りは、周辺でどこでも好調のところもあったようです。柏駅前の大形店は苦戦の様子。各商業施設への分散化、施設間の流動化が強まりつつある(百貨店)といった初売り不調の声や、「飲食店の廃業のニュースが何件か入りました。地元商店飲食店は衰退・廃業の一途をたど

っており、時代の流れだけで解決にしているのか疑問(食料卸売業)、「一般消費者にはそれほど落ち込みはないが、業務店用が柏駅近辺で飲食店が過剰気味のため、廃業または売上の減少と非常に厳しい(食肉小売業)といった地元飲食店不振による影響の声が寄せられた。また、「古紙配合率一〇〇%の問題で出荷停止があり、大きな問題となっている。紙業界全体の偽装に発展しそつた(文房具小売業)といった声や、「そこそこのレベルの従業員、特にパートタイマー、アルバイトの確保が大変難しくなってきた。抜本的な施策を考へないと日本経済は大変なことになる(書籍小売業)といった深刻な人材不足の声が寄せられている。その他、「ネットスーパーがスタート。雨の日等自分のパソコンにて買い物ができ、お客様から重宝がられています(総合スーパー)といったネットショップ開設のコメントが寄せられた。

【サービス業】では、「前年同月の比較では、売上増加予定。十二月の宴会と比べ、宴会の客単価上昇(居酒屋)、「宿泊はスポーツ団体あり。宴会・会議・展示会共に昨年並みの売上(ホテル)との声も寄せられているが、「フリー客が減少しているため、一月がどうなるか心配(居酒屋)との先行き不透明の声や、「仕入単価の上昇により、一部販売商品の販売単価を上げざるを得ない状況(獣医療)といった価格転嫁の声が寄せられている。

## 二月の景気キーワード

仕入コストの上昇

「原油高騰の影響大であり、業況は依然悪化(燃料小売業)、「灯油は一月少しダウンでも二月再値上げの通達もあり。仕入価格にとっても敏感になっている(燃料小売業)、「原材料高騰のため包装資材の原価が上がっている。ガソリンの値上げも配達業務等に多少影響が出ている(花小売業)といった原油・原材料価格高騰による悪影響の声や、「原材料高騰に関しては、相応の影響が出てくる。これに対応できるような更なるコストの削減努力、新しい商品開発が急務(食品スーパー)といった課題の声に加え、「グループ全体でPB商品の開発に力を入れ、極力価格上昇を抑える努力をしている(コンビニエンスストア)との新商品開発のコメントが寄せられた。

## 消費意欲の低下

小売業から、「セール期間中売上昨対九九・〇%と前年を下回る結果となり、低調な推移となっている(各種商品小売業)、「初売りは見切りに入った冬物衣料品・福袋を中心に動きがあったが、中旬に入り、前年数字を割り込んでいる(各種商品小売業)といった初売り不調の声や、「新学期衣料不足が悪い。財布の紐がかたく、細かくなっている(学生衣料)、「定率減税廃止や原油の高騰

等による生産費用増加や、先行き不安による消費の停滞があり、青果物にも厳しい状況(青果卸売業)、「今年に入り、消費者の買い控え、本当に必要なものしか買わないといった変化が見られる」といった先行き不安や購買意欲低下の声が多く寄せられた。

## 建築基準法改正問題

「建築基準法改正の影響は好転の実感(建設・建築用金属製品製造業)との声も寄せられているが、「建築基準法の影響で着工数の減少(塗料卸売業)との声や、「昇降機の建築基準法の改正の指針が二十年四月頃に国土省より出されるため、新規物件の動きが鈍い。建築基準法強化の影響がまた市況に表れていない(設備事業)といった声も寄せられている。

## CCI LOBORの比較

全産業合計では、「柏の景気」が三三・九に対し、「CCI LOBOR」が四七・九で、マイナス幅が一五・〇ポイント小さい。「柏の景気」の方が全ての業種で一〇ポイント以上良い。

# CCI - LOBO

## 商工会議所早期景気観測(1月速報)

調査期間：平成20年1月21日～25日  
 調査対象：全国の407商工会議所が2578業種組合等にヒアリング調査を実施。

### 全国の業況

業況・売上・採算ともに大きく悪化、業況DIは〇三年六月以来の水準

一月の景況をみると、全産業合計の業況DI(前年同月比ベース、以下同じ)は、前月水準(四〇・八)よりマイナス幅が七一ポイントと大幅に拡大して、四七・九となり、五カ月連続で悪化、二〇〇三年六月以来の水準に。

産業別の業況DIはすべての業種でマイナス幅が拡大した。

【建設業】からは、「昨年比べ、大型物件の受注が増加」(一般事業)との声がある一方、「原材料価格の高騰に対し、受注価格は低く、採算が悪化」(建築事業)、「受注の減少により売上が悪化する一方、資材価格の上昇分を価格に転嫁できず、厳しい状況」(一般工業)との声が寄せられている。

【製造業】からは、「アジア市場向けの輸出は好調」(繊維機械製造業)との声がある一方、「仕入価格の値上がりに対し、売上悪化の懸念から販売価格への転嫁は難しい状況」(自動車附属品製造業)、「原材料などコスト上昇の影響で、倒産が増加」(製材木製品製造業)との声も寄せられている。

【卸売業】からは、「気温低下の影響により、温かい食品の売上増加を期待」(農畜産水産卸売業)との声がある一方、「原油・仕入価格の高騰により、物流・梱包資材の価格が上昇し、採算が悪化」(他の卸売業)、「今後の景況不安による消費者の買い控えの影響で、売上の減少を懸念」(農畜産水産物卸売業)との声も寄せられている。

【小売業】からは、「婦人衣料は全体的に好調」(その他の小売業)との声がある一方、「個人消費の低迷に加え、競争の激化による売上の悪化を懸念」(百貨店)、「仕入価格の上昇や売上の低迷により、今後も厳しい業況が続く見込み」(商店街)との声が寄せられている。

【サービス業】からは、「昨年に比べ、受注が増加」(ソフトウェア業)との声がある一方、「年末年始の来客が予想を大きく下回るなど、厳しい状況」(理容業)、「原材料価格の高騰に対し、競争激化の影響で販売価格への転嫁が実行できず、採算が悪化」(他の一般飲食店)との声も寄せられている。

一月のキーワード  
 更なる悪化への懸念  
 各業種から、業況の悪化と先行きへの懸念を訴える声が多く

せられている。建設・製造からは、「受注件数の減少に加え、資材価格の値上がりにより採算が悪化、今後は、さらに厳しい状況となる見込み」(多治見・管工事業)、「原材料や包装資材に加え、輸送コストも上昇するなど、今後とも厳しい状況が続く見込み」(新潟・水産食料品製造業)との声が寄せられている。また、卸売・小売・サービスからも、「仕入価格の上昇や消費者の買い控えが目立ち、昨年より厳しい状況、今後の更なる悪化を懸念」(前橋・衣服用品卸売業)、「昨年末からの食料品の値上げにより、売上の減少を懸念」(岩見沢・百貨店)、「都市部からの新規参入により競争の激化が見込まれ、売上の悪化を懸念」(仙台・旅館)といったコメントが寄せられている。

仕入コストの上昇  
 各業種から、原材料価格の高騰による仕入コストの上昇を訴える声が寄せられている。建設・製造からは、「公共工事の受注減少に加え、原油価格の高騰に伴う原材料価格の値上がりは今後の懸念材料」(赤穂・一般工業)、「この一年だけで原材料価格の値上げが複数回実施され、収益を圧迫」(岐阜・プラスチック製造業)との声が寄せられている。また、卸売・小売・サービスから

「仕入価格の高騰に伴って採算悪化の影響が大きく、倒産や廃業が増加」(土別・各種商品卸売業)、「包装用資材の値上がりが決定、今後は収益に影響が及ぶ見込み」(深谷・その他の小売業)、「資材価格や運送費の高騰分を販売価格に転嫁できず、採算が悪化」(臼杵・洗濯業)といったコメントが寄せられている。

消費意欲の低下  
 株価低迷等による今後の景況不安や、原油価格の高騰に伴う各種商品の値上げに対する不安感から、消費者の購買意欲の低下による悪影響を挙げ、声も寄せられている。小売からは、「原油価格の高騰の影響で、高額品・衣料品の買い控えが顕著」(盛岡・百貨店)、「初売りやセールの売上が前年を大幅に下回るなど、厳しい状況」(柏・商店街)、「サービスからは、「商品価格の値上げ報道に伴う、消費意欲低下の影響」により、宿泊客数が減少」(福島・旅館)、「正月の売上の悪化が当初の予想を上回るなど、厳しい状況」(土佐清水・食堂・レストラン)といったコメントが寄せられている。

全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
8月	▲32.0	▲44.3	▲23.5	▲48.4	▲31.1	▲27.9
9月	▲33.6	▲45.4	▲27.5	▲41.1	▲33.8	▲29.1
10月	▲34.9	▲47.2	▲27.0	▲44.3	▲33.8	▲33.0
11月	▲36.1	▲46.8	▲29.2	▲45.6	▲36.0	▲32.6
12月	▲40.8	▲57.3	▲34.9	▲44.9	▲39.0	▲37.1
1月	▲47.9	▲58.1	▲40.4	▲55.6	▲49.2	▲44.5
見通し	▲44.3	▲54.3	▲40.7	▲44.1	▲46.2	▲39.7

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI